

安芸灘諸島における景観資源に関する意識調査分析

呉高専（正員）山岡俊一 市坪 誠（非会員）佐賀野健 呉大学（正員）今田寛典
呉市役所（非会員）石川知憲 高瀬和博 国土交通省中国地方整備局（正員）○重森聡史

1. はじめに

安芸灘諸島には大小の島々が飛び石のように連なる多島海の自然景観はもとより、史跡、重要伝統的建造物群保存地区などの文化財も多く存在する。しかし、これらの魅力は人々にあまり認識されていないのが現状であり、有効的に活用されていないといえる。そこで本研究では、安芸灘諸島在住者と安芸灘諸島在住者以外（広島市民など）を対象に安芸灘諸島の景観資源に関するアンケート調査と、景観資源撮影調査を実施し、安芸灘諸島を含めた呉地域に対する地元住民と周辺住民の意識を明らかにする。

2. 調査概要

（1）安芸灘諸島在住者対象アンケート調査

安芸灘諸島在住者対象アンケート調査の概要を表-1に示す。呉地域商工会青年部が主催した「ふるさと再発見！」“安芸灘観光クルーズ”に調査員1名が参加した。このクルーズは図-1に示すように音戸・倉橋地区に住んでいる方を西グループ、蒲刈、大崎下島、および川尻地区に住んでいる方を東グループとし、安芸灘諸島を東西2つのグループに分け、各グループが東西逆の島を散策するものである。

（2）安芸灘諸島周辺在住者対象アンケート調査

安芸灘諸島周辺在住者対象アンケート調査の概要を表-2に示す。呉市企画部広域行政推進室が主催した「呉地域瀬戸内再発見！」“銀河クルーズ”に調査員8名が参加した。このクルーズでは図-2に示すルートで安芸灘諸島をクルーズし、大崎下島の御手洗地区を散策し、大和ミュージアムを見学する企画である。

（3）景観資源撮影調査

「呉地域瀬戸内再発見！」“銀河クルーズ”に参加した呉高専学生7名が、クルーズ中に気になる景観をデジタルカメラで撮影した。撮影対象景観は、好きなところ、嫌いなところ、綺麗なおとこ、印象的だったところなど制限はない。また、撮影したそれぞれの写真について、撮影理由や感想を記入してもらった。

3. 安芸灘諸島在住者の景観資源に対する意識

（1）居住地域の景観に対する評価

表-1 安芸灘諸島在住者対象アンケート調査の概要

調査日時	平成17年9月4日（日）
配布方法	クルーズ日程終了時に船内で手配り
回収方法	当日の帰りまでに回収
内容	瀬戸内海の景観について
回収部数	103（東グループ：47、西グループ：56）

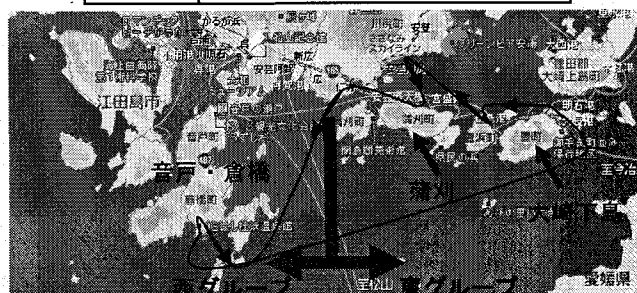


図-1 「ふるさと再発見！」“安芸灘観光クルーズ”

表-2 安芸灘諸島周辺在住者対象アンケート調査の概要

調査日時	平成17年9月23日（金）
配布方法	クルーズ日程終了時に船内で手配り
回収方法	当日の帰りまでに回収
内容	瀬戸内海の景観について
回収部数	60

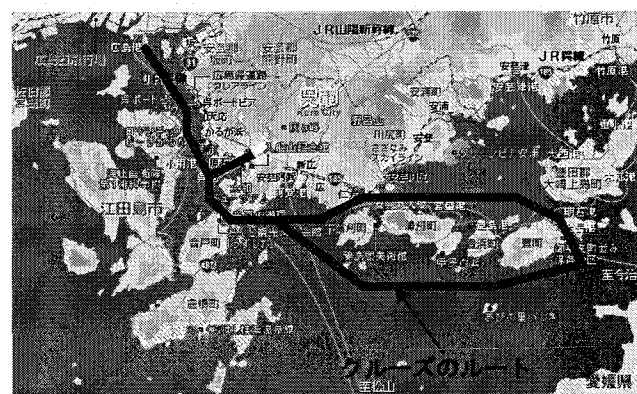


図-2 「呉地域瀬戸内再発見！」“銀河クルーズ”

図-3に回答者の居住地域の景観に対する評価を示す。図より、西グループと東グループともに6割以上の回答者が優れていると感じている。具体的に優れているところとして、西グループでは「音戸大橋」、「海の景色」が多かった。東グループでは、「御手洗地区（大崎下島）の歴史的な町並み」、「瀬戸内の自然や多島美」が多かった。以上より、どちらの地域住民とも自分の住んでいる地域に良い印象を持っているといえる。

（3）瀬戸内海の景観に対する評価

図-4に回答者の瀬戸内海の景観に対する評価を示す。図より、全体で約9割の回答者が優れていると感じ

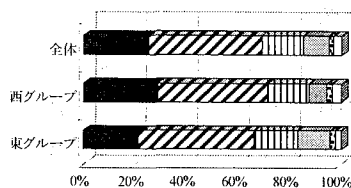


図-3 居住地域の景観に対する評価
(安芸灘諸島在住者)

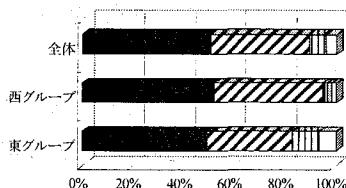


図-4 瀬戸内海の景観に対する評価
(安芸灘諸島在住者)

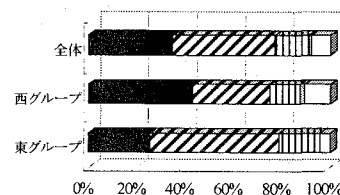


図-5 クルーズコースの景観に対する評価
(安芸灘諸島在住者)

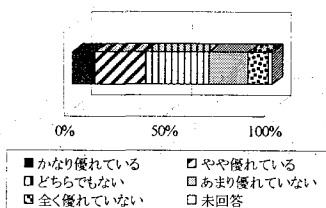


図-6 居住地域の景観に対する評価
(安芸灘諸島周辺住民)

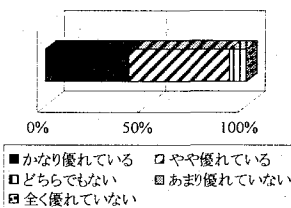


図-7 瀬戸内海の景観に対する評価
(安芸灘諸島周辺住民)

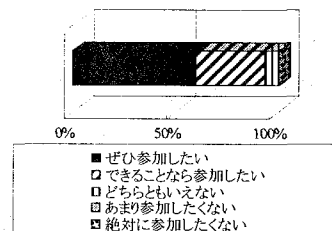


図-8 安芸灘諸島におけるクルーズ企画の評価
(安芸灘諸島周辺住民)

じている。

(4) クルーズコースの景観に対する評価

図-5に回答者のクルーズコースの景観に対する評価を示す。図より、西グループと東グループとも7割以上の回答者が優れていると感じている。回答者は安芸灘諸島の中で自分の住んでいない地域に対しても魅力を感じていることが分かる。

4. 安芸灘諸島周辺住民の景観資源に対する意識

(1) 居住地域の景観に対する評価

回答者の居住地は、広島市が78.3%、呉市が8.3%、その他が13.4%であった。図-6に回答者の居住地域の景観に対する評価を示す。図より、「どちらでもない」が32%と最も多かった。3.で示した安芸灘諸島の居住者(図-3)に比べて優れていると思っている回答者は少ない。これは、回答者が主に広島市民であるため、安芸灘諸島の居住者がいかに自分たちの住む地域の景観に誇りを持っているかが分かる。

(2) 瀬戸内海の景観に対する評価

図-7に回答者の瀬戸内海の景観に対する評価を示す。図より、全体で約9割の回答者が優れていると感じている。安芸灘諸島居住者以外にとっても瀬戸内海は魅力的な景観であるといえる。

(3) 安芸灘諸島におけるクルーズ企画の評価

安芸灘諸島におけるクルーズ企画に再び参加したいかを尋ねたところ、図-8に示すように、約95%の回答者が参加したいと答えている。

5. 景観資源撮影調査による安芸灘諸島の景観評価

景観資源撮影調査で撮影された写真は合計480枚で

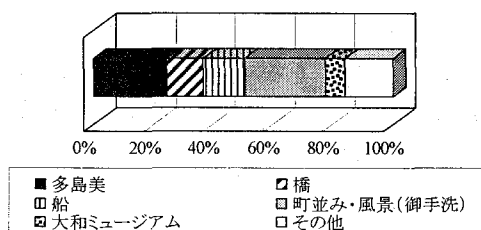


図-9 撮影写真の主対象

あった。図-9より、最も撮影頻度の高い主対象はいずれも呉地域の独特な魅力であり、呉を中心とした安芸灘諸島広域には魅力的な資源が多く存在することが確認できた。なお、被験者の撮影写真に対する評価の割合は、肯定的意見が82%であり、被験者は安芸灘諸島の景観資源に対して良い印象を受けたといえる。

6. まとめ

本調査より、安芸灘諸島在住者、および広島市民を中心とした安芸灘諸島周辺住民ともに安芸灘諸島の景観資源に魅力を感じ、高い評価をしており、呉地域にはこの地域特有の資源が多く存在することが確認できた。したがって、安芸灘諸島には地域住民による体験型環境・社会学習、滞在型スローライフの体験、島と島の周遊などの集客交流ニーズ創出のための資源が豊富に存在していることが実証できたといえる。

謝辞：本研究の一部は土木学会中国支部研究活動助成金(B)の助成によりました。付記してここに感謝の意を表します。